います。

答弁 水沢区に36館、前沢区に5館あります。

質問 分館廃止は、行財政改革の柱として進んできたと思いますがいかがか伺います。

答弁 財政改革が進むよう分館のあり方について、もう少し時間をいただきますが、使うお金をいくらでも減らすことで取り組んでまいりますのでご理解いただきたいと思います。

質問 奥州市として当然一本化すべきと思いますが、江刺区ではすでに処理されており、これから続けていくとなると違ってくることになります。20年度に廃止するとされていましたが、なぜ変更になったのか伺います。

廃止か続行か検討を要する分館（水沢区下河原分館）

答弁 地域にとってはコミュニティーの場所として、社会教育にとって必要だと考えています。

説明の努力が充分でありませんでした。今年・来年もう少し説明しながら進めようということです。

質問 胆沢区笹森地区は新興住宅地で、新しい家が次々と建っています。しかし、笹森児童館は小学3年生以下の子供たちで満員です。スクールバスを降りると小学4年生以上の子供たちは「鍵っ子」状態で、親たちは、子供が心配で仕事が手に付かない状況です。公民館もない場合の対応について伺います。

答弁 子供教室を県の補助で小学校区ごとに設置しています。平成19年度は9教室実施しました。子供の面倒を見て頂くボランティアが必要です。状況はわかりますので、どのような準備ができるか一緒に考えていきたいと思います。

質問 地域包括支援センターについて、水沢区は3チーム、江刺区は2チーム最低必要と思います。正規職員が休みを取れない状況であり、基準に沿って人員配置をすべきと考えますが伺います。

答弁 職員定数を減らしているところで、どこの部署も厳しい状況です。実態を把握し総合的に判断してまいります。

質問 病院で患者が多く集まり医師も充分いる病院と、患者が少なく医師も集まらない病院の違いがどこにあるか伺います。

答弁 大学の医師配分機能が失われ、「勝ち組」と「負け組」にわかれてきたもので、公立と違い私立の場合「負け組」はなくなってしまいます。また、どのような病院にしたいのか、強烈な理念がある病院が生き残るものと感じています。このような理念を確立すべく努力します。現場からでた理念である必要があります。

質問 人件費について分析し、水沢病院とまごころ病院を比べると、医師一人当たりの看護師の数がそれぞれ9・2人、4・85人と大きく隔たっているが、このような検討をしているのか伺います。

答弁 水沢病院は看護基準を高く設定してありますし、夜間救急受け入れ態勢をしていております。このことで、見合いの収入が確保されており一概に比較はできないと考えております。数値については、検討すべきものと考えます。

産業経済部門

質問 子育て優良企業表彰について伺います。

答弁 基準をクリアできるよう地域全体の子育て環境の改善の底上げを図るため、企業協力のもと次世代育成対策の行動計画づくりに向け支援を充実させたいと考えています。

質問 商業振興費の「中心市街地整備推進事業」の効果はあがっているのか伺います。

答弁 商工団体・市民・行政が一体となって知恵を絞りながら対策を講じることは時間がかかるが効果はあがっていると思います。又メイン施設はメイプルでありメインが活気・活性化する効果的な事業を続けていきます。

質問 震災を受けた国見平スキー場・ひめかゆスキー場の営業再開について伺います。

答弁 影響は大きいが技術的確認の上まもなく結論が出ると思います。

質問 緯度観測所「宇宙遊学館」をアピールするためにも案内板や周辺整備をするべきと思いますが伺います。

答弁 「宇宙遊学館」は、観光という側面からすると不十分であり観光協会と一緒になり早急に対応していきます。

質問 祭りに対する補助の考え方、「遷都行列」の歴史的位置付け等、